

インタビュー シリーズ

エンディングメイクMARRIA
復顔修復納棺師

代表 太田 円香さん

取材日 2020年11月18日



「今までありがとうね」って言いながら、「明日じゃあ行ってらっしゃい」って見送る。私たち復顔修復師による施術は、心の立ち直りを助けるうえで、大きな役割を果たすと思っています。

復顔修復納棺師でエンディングメイクMARRIA代表の太田円香さんにお話をお伺いしました。生前のお顔に近い、ほんのり笑っているような、その表情から何か言葉を伝えられるようなメイクに、と日々多くの方のメイクを手掛けておられます。

微笑みの表情を還元すると、そこで初めて感情が沸き上がり、涙することによって死を受け入れることができるようになる。

Q エンディングメイクとは、どういったものでしょうか？

太田さん 病氣、急死、老衰、事故、自殺、孤独死など、死因により、生前とは別人のようなお顔になられることは少なくありません。生前の写真を参考に『穏やかで、安らかな表情』を取り戻す施術で遺体保全を行い、最期のシャンプリー、セット、死後変化をカバーしながら血色メイクにより『まるで生きているような表情を還元、修復』する施術で、故人様はもとより、ご遺族様の悲しみを癒すメイクと言われています。また亡くなられた時、口が開いた状態になることが多いですが、どんな方でも、口を閉じる事ができる専門業者とも言われています。

医療が進んで長生きすることで、生前の面影と違うお顔になってしまいます。そうすると、子どもや孫、親族の方が「生きていた時と全く違うよね」と、実感がわかなくなってしまう。事件、事故、孤独死等では警察から「お顔は見えない方がいい」と言われることがあります。「本当に亡くなったのか？」と納得ができません。

死を受け入れられない方もおられます。そういう方にはできるだけ元のお顔に近づける特殊メイクを行います。

私たちが手掛けるエンディングメイクは、「故人様が最期にご遺族に何を伝えたいのか？」と、その方の顔に残された表情筋としわを探りながら表情を還元する特殊メイクです。メイクといっても、アイシャドウやマスカラなど普通のメイクとは全く違う復顔修復の施術です。

男性は一般的に、普段化粧をされません。エンゼルメイク（亡くなった方の顔や体を化粧品などで綺麗に整えるエンゼルケアの一つ。）をすると変に化粧顔になられるので、病院でも葬儀社でもしない方が多いです。私たち復顔修復師による施術では、高齢の、特に男性の方への施術が多いのですが、それは、いかに化粧をしていないかのように見えて死後変化をカバーする血色メイクをするからだと思っています。施術すると「まるで生きている血色だ」「微笑みでる」などびっくりされる方も多いです。男性の方は、シャンプリー、セット髭剃り、鼻毛処理をすることで5歳〜10歳若返られます。

痩せた部分に特殊な綿を詰めてふっくらさせ、微笑みの表情を還元すると「あ、じいちゃんに戻った」「お婆ちゃ

んやー。」と、そこで初めて感情が沸き上がり涙すること死を受け入れることができるようになります。本当に親しい人が亡くなっても、その方の面影を残していない場合、感情がないんです。本来「死を受け入れて涙を流すこと」は、とても大切な過程です。

事故の場合や、思いがけずお顔に傷や損傷がある場合は、シヨックを受けて落ち込みます。もし、その方のお顔が、事故の傷もなく、ほんのり微笑んでおられたら、このシヨックは少しで済みません。

そうしたことから、私たち復顔修復師による施術は、グリーンフェアの中で、心の立ち直りを助けるうえで大きな役割を果たすと思っています。

亡くなった母に化粧した時に、母から「あなたにしかできない仕事をやりなさい」と言われた気がしました。

Q「二のお仕事をされたきつかけは？」

太田さん 私のがんになり、髪も眉毛まつげがなくなり怖い顔になってしまいました、死を考えたことがあります。「どうやって死のう」と思った時、こんな顔を見られるのは絶対に嫌だと思いました。

死をあきらめた時、父が急死したのですが、その父の一周忌が終わったら母と温泉旅行に行く約束をしていました。やっと親孝行ができるも楽しみにしていただいたのに、母も急死してしまいました。取りあえず駆け付け、信じられない中で母の化粧品で化粧しながら、「お母さん、私、がんになったし、いつまで生きられるかわからない。これからどんな仕事をしたらいいと思う？」と話かけた時、母に「あなたにしかできない事をやりなさい」と言われた気がしました。

私にしかできないことは何だろうと考えるうちに、がんになって抗がん剤の副作用で、「こんな顔で死にたくない」と思った経験。それから、亡くなった母を化粧したことで、近所の方が「若く見える」とか、「全然化粧しなかったけど化粧したら綺麗やん」と母を褒めてくれたこと、「なぜ、もっと早く旅行に連れて行かなかったのか？」自分を責めていた心が、これで少し親孝行の真似事ができたような気がしました。「もし私が息子だったら…？」最後に綺麗にすることもできず、この先ずっと後悔の念をもちながら生きていたのかもしれない。それから、亡くなった方をもっと綺麗にしたいと…そして私のがんの経験から、最期は気持ちよく、旅立って頂きたいという想いを持つようになりました。

がんで入院している時、一番の楽しみはシャンプーでした。頭皮の痒みは不快です。シャンプー後はいい香りで気分爽快、食べたいものも食べれない入院生活で一番の楽しみでした。だから、このメイクには必ずシャンプーセットをしてあげたいと思っています。

寝癖が付いた髪を綺麗にセットし、最後にご遺族様に触って頂きます。「小さい頃はよく頭を撫でてもらいましたよね、最期にお返しとして撫でてあげて下さい」と促します。ご遺族様はふわふわになった髪を撫で、「洗ってもらってよかったね」と涙しながら、最後にご遺体に触って頂きます。

施術中に故人様に問いかけます。「どんな人生でしたか？何を伝えたいですか？」

Q「お仕事をされるうえでの思いは？」

太田さん 母の葬儀の準備で忙しく、死を受け入れる心の余裕もなく、気がついたら葬儀が終わっていました。そこには、いつまでも「母の死を受け入れられない自分」がいました。なぜこんな辛いのだろう、想い返すと、冷たい母の手を握ることもなく、見てみないふり、涙することもできていませんでした。

すっかりと涙をながし、心が死を受け入れることをしなかったからではないか…

と。

それから、この仕事で納棺をするとき、忙しい中でも納棺作業を家族にも立ち合ってもらい、冷たい手足を触り、髪を撫でてもらい、「こんなに冷たくなくて良かったです。お別れをしなければならぬ」と心がお別れを受け入れるよう準備をさせていただきます。「我慢しないで思いっきり泣いてもいいんです」と促します。

「納棺時に沢山涙を流し、まるで生きているような故人様に自分の想いをお話して頂きたい。」

まるで生きているような穏やかなお顔にするのはそのためです。後悔の念や心の中にあるわだかまりをすべて打ち明け、心を穏やかにして見送って頂きたい。告別式の時は「今までありがとう、いってらっしゃい、とお見送りしてくださいね」と。

事故、事件、自殺などの特殊メイクをするときは、解剖学からその人の判別が難しい場合も、復元していくと、本当にその方のお顔になっていきます。腐敗して皮膚に触ることさえも難しい方は困難を極めます。それでも穏やかなお顔にしてあげたい。施術中に故人様に問いかけます。「どんな人生でしたか？何を伝えたいですか？」「最後の言葉をお子様、お孫様に伝えましょう。そのお手伝いをさせて下さいね」と。ある喪主様が特殊メイクの時に言われ

ました。「苦しい表情だったのに、見たら母らしく笑っている…」「すごい、こんな表情の復元ができるのですね？」「こんな仕事があるのに皆さん知らないですよ。僕を取材してくれたら生の声を言いますから…」と（笑）

その方には、お客様の立場になったわかりやすいパンフレット作りにご協力頂きました。

自分がいつ死ぬかはわからない。明日か明後日かもしれない。今までこの仕事で急死の方を沢山見てきました。

「明日死ぬかもしれないとしたらあなたは、後悔なく人生を終えられますか？」

Q 太田さんが思われる「死生観」とは何でしょう。

太田さん 自分の寿命は誰にもわかりません。この仕事をするようになって仏教や神様のことに係わってから、「人の魂はお腹の中に宿った時に、自分の寿命をもって生まれてくる。この世で修行、魂を磨くための年数が寿命の数と言われていて、太くて短い方、細くて長い方それぞれ。この世での修業が終わった時、お別れが来る」と考えるように。自分にも人にも、自分がいつ死ぬかはわからないのです。明日か明後日かもし

れない。今までこの仕事で急死の方を沢山見てきました。「明日死ぬかもしれないとしたらあなたは、後悔なく人生を終えられますか？」ということですね。

納棺体験と言って、本当の棺に入る体験をしました。静かで暗い箱の中、今この中で死んだら、悔いなく人生を終えられるか？もし生き返るなら何をしたいか、しなければいけないか？と考えました。

後悔のない人生…、今できることを全身全霊でする。後であれをしとけばよかったとか後悔しないように生きる。」「親孝行しないとなー」って思ったらすぐ行動して下さい（笑）

「私の家族に対する最後の思いやりが穏やかなお顔で別れること。」「そういう思いで頼んでください。」

Q 生前予約も受け付けておられるとか？

太田さん インターネットを見て「母が余命宣告3か月です、最期は綺麗にしてあげたいんです」とか、「母が口を空いたまま死ぬのは絶対いやだから、閉じてほしいと言っている」とか、「義母は綺麗な人だったから、昔の面影に少しでも戻せますか」といったお問い合わせをいただきます。生前予約の方は、生きておられるうちに

会いに行き、直接お話を聞いてご納得頂いた方のみさせて頂いております。

ご本人にお会いできれば、どのような感じを希望されるのか、直接お聞きできるので。その時にお写真を一枚とらせて頂きます。

「これで想い残すことなく安心しました。私の家族に対する最後の思いやりが穏やかなお顔で別れることです。葬儀も花もなくてもいいけど、このエンディングメイクは絶対に外せません」そういう思いで頼んでくださり、予約後1か月半で旅立って逝かれた方もおられました。

そのご遺族様も、「同じように余命宣告をされている方々のお力になりたい。私の声をお客様の声としてご協力します。」と仰ってください。パンフレットに、実際のお客様の声として掲載させて頂きました。私たちは幸せな方々のところにしか行くことができせん。「最期は綺麗にしてあげたい」と願うご遺族様がおられるところ…、ということはお愛されている方なのです。今までの故人様が託した愛を最後にご遺族様が返してくださいっているのだなど。生きている間、愛を注いだかどうか最期にわかるのだなど感じています。

エンディングメイク MARIA さんのパンフレット。
「最期のコトバを表情にたくす…」

悔いのないお別れのお手伝いを、という太田さんの思いが込められています。



ご利用者様の声がたくさん掲載されているパンフレットも。このエンディングメイク(復顔修復師による施術)を体験されたご遺族様の喜びの声がたくさん書かれています。

〈掲載されている声〉

「母の表情を見ていると「ありがとう」が伝わり涙がとまりませんでした。」
「お友達からも口ぐちに「綺麗」と言葉をかけて下さり娘も喜んでるように感じました。」
「兄弟からも綺麗にしてくれてありがとうといってもらい肩の荷がおりました。」
「母が亡くなって1か月経った今でもあの日を思い出しますが「母らしい顔をしていたな」と思います。」
「火葬の直前、最後に見たのはあの優しい寝顔の母でした。」
「このメイクは絶対必要だと確信しました。」

●エンディングメイク MARIA

表情を還元する
復顔修復納棺師

電話
077-575-8540

携帯
080-3777-6961

詳しくは

エンディングメイク

検索